

特異な構音操作の誤りの評価と訓練法

山下夕香里先生 (元帝京平成大学健康メディカル学部言語聴覚学科 教授)

武井 良子先生 (昭和医科大学保健医療学部 保健医療学教育学 講師)

構音障害の領域では、養成校で学んだ音声学、解剖・生理学、耳鼻咽喉科学、形成外科学、臨床歯科医学などの専門知識に基づいて評価・訓練を行うことが求められます。本シリーズでは、これまでに学んだ様々な知識を再確認しながら、構音障害を扱う専門職として効果的な訓練が実施できることを目指します。

講師からのメッセージ

特異な構音操作の誤りは、自然治癒する可能性が低いとされる構音障害です。療育施設で発達をフォローする中で、構音障害が目立ってこられた方、幼少期に訓練を受けられたが改善に至らなかった方、これまで訓練を受ける機会がなく社会生活の中でコミュニケーションに悩んでおられる方など、言語聴覚士など専門職の訓練を希望する方が多いと推測されます。このような方々に出会われた際に適切かつ臨機応変に対応できるよう、評価と訓練の考え方についてお話ししたいと思います。

1 特異な構音操作の誤りの評価

1/9(金)

山下夕香里先生

特異な構音操作の誤り（声門破裂音、口蓋化構音、側音化構音、鼻咽腔構音）について、構音操作の特徴、誤りやすい音、聴覚的印象、評価のポイントについて解説します。さらに訓練プログラム（訓練の枠組）についてもお話しします。

2 口蓋化構音・側音化構音の訓練 1 —構音基本操作からの音の產生—

1/16(金)

山下夕香里先生

口蓋化構音や側音化構音では、特異な舌運動のため音の產生に時間を要することが多いです。構音基本操作から音を產生する過程で、特異な舌運動を改善するためにどのように舌運動訓練を行うか簡単な演習を行います。手鏡、ペンライト、舌圧子をご用意下さい。

3 口蓋化構音・側音化構音の訓練 2 —単語訓練から会話へ—

1/23(金)

武井良子先生

音が安定して產生できるようになると、単語や短文など、ことばの中で使用する段階に進みますが、口蓋化構音・側音化構音では、この段階で訓練が思うように進まないことも少なくありません。この段階の訓練で気をつけるポイントについてお話しします。また、日常会話になかなか般化しない場合の対応についても解説します。

4 鼻咽腔構音・声門破裂音の訓練

1/30(金)

武井良子先生

鼻咽腔構音および声門破裂音は、頻度は多くないものの、対応に苦慮することの多い構音障害です。特に声門破裂音は鼻咽腔閉鎖機能不全との関連が深く、器質的な問題への配慮が重要となります。これらの構音障害に対する訓練の考え方と基本的な進め方について解説します。

【開催時間】 19:00～20:15

【参加費】 1講座につき 当研究所会員 1,000円 非会員3,000円

【申込方法】 右記のQRコードからお申込みください。

* 詳しくは下記のホームページをご覧ください。

[HP] <https://fc-science.or.jp>

